

本日の議論の進め方

令和8年2月19日

G Xグループ エネルギー・環境イノベーション戦略室

本日の議論の進め方（1/2）

- 第17回グリーンイノベーションプロジェクト部会（令和7年11月10日開催）において、「廃棄物・資源循環分野におけるカーボンニュートラル実現」プロジェクトへの取組内容の追加が承認された。
- また、積水化学工業株式会社より、同プロジェクトにおける以下の取組の中止申し出があった
 - 【研究開発項目2】ガス化改質と微生物を用いたエタノール製造による廃棄物ケミカルリサイクル技術の開発（一部）

省庁担当課による説明

これまでの進捗・成果や取組追加に係る背景・概要・必要性、また今回の中止申し出を受けた対応等について説明

実施企業による説明

（非公開）

プロジェクト実施企業の経営者から今回の中止申し出に至った事由等について説明

質疑応答・総合討議・決議

（非公開）

- 説明後、質疑応答。その後、本プロジェクトに関する研究開発・社会実装計画（改定案）について議論し、決議を実施
- ご議論いただきたい事項は3ページ目のとおり。

グリーンイノベーション基金事業の基本方針（抜粋）

技術潮流や競争環境の著しい変化、研究開発期間中の著しい経済情勢の変動、天災地変その他不可抗力（感染症の拡大、紛争等）又は研究開発開始時点で予測することのできない事由であって実施者の責任によらない事情があるとWGが認めた場合については、実施者の希望に基づき、WGは実施者に対して改善点の指摘及び事業の中止にかかる意見を出すことなく、事業を中止できる。

本日の議論の進め方（2/2）

- 第17回グリーンイノベーションプロジェクト部会（令和7年11月10日開催）において、以下のプロジェクトの新規組成が承認された。
 - 次世代型地熱技術の開発

担当課室による説明

新規組成するプロジェクトの背景・概要・必要性等について、資源エネルギー庁 資源・燃料部より説明



自由討議

- 説明後、質疑応答・議論
- ご議論いただきたい事項は3ページ目のとおり。

研究開発・社会実装計画（案・改定案）について御議論いただきたい事項（1/2）

1. 背景・目的について

- 重点分野の現状と課題、その解決の方向性、社会の全体像が示されているか。関連する技術・市場動向、企業等の国際競争力、制度環境、海外の政策動向等の分析は示されているか。
- 上記全体像の中で、本計画で取り組む範囲は適切か。民間企業が自主的に取り組むべき内容を支援対象に含んでいないか。
- 制度整備や国際連携等、研究開発以外の政府（関係省庁含む）の取組や民間団体の自主的な取組と有効に連携させた、社会実装までの道筋を示す計画となっているか。
- 関連する研究開発プロジェクトとの重複を排除し、連携する体制を構築できているか。過去の類似のプロジェクトの反省は行っているか。

2. 目標について

- 企業等の経営者のコミットメントの対象となるアウトプット目標として、野心的かつ評価可能な指標（性能、コスト等）が設定されているか。
- プロジェクト内容と整合的かつ国民目線で分かりやすい表現により、CO₂削減効果や経済波及効果（関連ビジネス全体）等のアウトカム目標を設定しているか。
- 改定の場合、アウトプット目標やアウトカム目標への影響がないか。

研究開発・社会実装計画（案・改定案）について御議論いただきたい事項（2/2）

3. 研究開発項目と社会実装に向けた支援について

- 目標を達成するために必要な技術課題が分析されているか。研究開発の範囲や解決手法を限定せず、研究開発内容を適切に分割する等して、幅広い事業者の創意工夫を促すよう設計されているか。
- 規模、期間、実施主体、研究開発要素（委託・補助の考え方）等は、野心的な目標を定めた上で研究開発から社会実装までを継続して支援するという基金事業の趣旨に合致するか。（「グリーンイノベーション基金事業の基本方針」に定める要件を充足しているか。）
- 成果を最大化させるため、実施者間の連携又は競争を適切に促す設計となっているか。
- 標準化等、社会実装に向けた支援方策を十分に検討出来ているか。
- 改定の場合、記載を変更する意義や合理性、既存の研究開発内容との関係性は明確か。

4. スケジュール・予算について

- 事業化に向けた段階の切れ目等の適切なタイミングにおいて事業継続可否を判断するステージゲートを設けているか。費用対効果を最大化するため、技術方式の絞り込みや社会実装を担う事業者の追加公募等を行う予定としているか。
- 予算額の考え方は適切か。
- 改定の場合、社会実装に向けたスケジュールに影響がないか。変更後の予算額の考え方は適切か。

(参考) 取組の追加・拡充を想定するプロジェクト

- 前述の評価軸等も踏まえつつ、基金残額の一部を活用※して、以下のプロジェクト組成等を進めることにつきご了解をいただきたい。

※留保枠として確保していた1,000億円も含む

1. 新しいプロジェクトの追加

● 次世代型地熱技術の開発

IEAレポートにて2050年までに世界のエネルギー需要の15%を占めることが見込まれるとされている地熱発電は、次世代型地熱発電技術を中心に、今後の市場拡大が期待されている。日本は地熱ポテンシャル世界第3位であることに加え、次世代型地熱技術は①従来型よりも深い場所の地熱資源の活用や②地下に水や割れ目がない地点での開発などを可能とするものであり、今後の導入拡大の有力な選択肢であることから、地熱発電容量の拡大に向けた研究開発・実証に取り組む。

2. 実施中のプロジェクトへの取組内容の追加

● CO₂分離・回収を前提としたCN型廃棄物焼却処理全体システムの開発

2024年-2025年にかけて、「CO₂回収プロセスに影響を与える廃棄物由来微量物質の特定ならびに影響評価」等の開発を行い、2025年時点でラボ/ベンチ試験にてCO₂回収率90%以上などのKPIを達成。引き続き、大規模実証においても廃棄物に含まれる炭素安定回収率90%以上の達成を目指すべく、開発・実証に取り組む。

※①「廃棄物・資源循環分野におけるカーボンニュートラル実現」プロジェクトへの取組内容の追加